

お申し込みの際には…

募集要項

2017

藍

染

第17回
通信文化講座

基本コース・研究コース



阿波の伝統工芸「藍染め」を
自宅で体験してみよう。

●FAXでお申し込みの場合は、この面を送信してください。

FAX/088-626-0833

●受付完了後、受講受付確認書をお送りいたします。

●不明瞭な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

TEL/088-626-0408

(切り取り)

募集受付 平成29年1月10日(火)から先着順に受付
募集人員 50人(定員になり次第締め切りとさせていただきます。)
講座期間 平成29年3月～平成29年12月(10ヶ月間)

コースの
選択 ●基本コース 今回初めて参加される方へ
(毎月1回で全10回)
●研究コース 当通信講座の受講経験があり、様々な染めの
技法を使って作品づくりを楽しみたい方へ
(2ヶ月に1回で全5回)

受講料 基本コース・研究コースとも 32,400円
ガイドブック・テキスト・教材を含みます。
研究コースはガイドブックが付属しません。

テキスト
及び教材 最初にお送りするものは次のとおりです。(3月中旬発送)
●ガイドブック(講師著書の「阿波の草染淡色」B5判改訂版)
●テキスト(A4判)
●第1回目の教材(藍の種など)
●質問用紙(10枚)
●資料等を綴じるファイルなど
*テキストはホームページ上で随時公開してまいります。

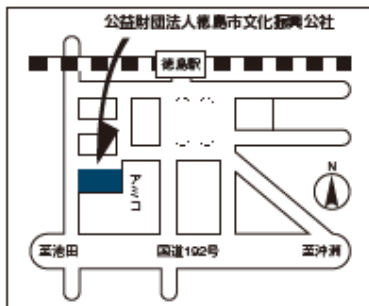
申込方法 必要事項を記入のうえ、受講申込書を FAXしていただくか、
電話、e-mailでお申込みください。

受講料の
支払方法 受付ができ次第、受講受付確認書をお送りいたします。
第1回目のテキスト等をお受取になるときに、代金引換でお支
払ください。

*ご不明な点は下記までお問い合わせください。
[受付時間/AM9:00～PM5:00]

◆休館日：毎月第1火曜日◆

ご案内



公益財団法人
徳島市文化振興公社
〒770-0834
徳島市元町1丁目24番地
TEL(088)626-0408
FAX(088)626-0833
tuushin@cf.civic-center.jp

ホームページ <http://www.civic-center.jp/>

お名前	ふりがな	郵便番号
ご住所 & 連絡先	〒() () () FAX() () ()	
ご希望の コース	<input type="checkbox"/> 基本コース <input type="checkbox"/> 研究コース	
※個人情報については、当講座事業以外には使用いたしません。 アンケートにご協力ください。 通信講座は何で(どこで)知りましたか? 今までに染めの経験はありますか? <input type="checkbox"/> 初めて <input type="checkbox"/> 何度か経験がある <input type="checkbox"/> 趣味でしている <input type="checkbox"/> 染めの仕事をしている <input type="checkbox"/> その他()		
《お申し込みありがとうございます。》		

講師 アキヤマセイコ
(自然染色研究家)

1934年生まれ、愛媛県出身。
30代迄はニットのデザイナー。40代より植物採集をきっかけに草木染めを始め、その後藍色に魅せられ藍の研究に取り組む。50代で藍生葉の染色に独自の道を開く。
現在、徳島市文化振興公社、阿波和紙伝統産業会館等で染色指導の傍ら、自然染「SHIBUKOYA」を開校。著書に「阿波の草染藍色」徳島県阿波市在住



子供との植物採集がきっかけとなって草木染めの道に入ったのは、40才を過ぎてからでした。それまでニットのデザイナーをしていましたので、糸を素材に片っ端から草で染めてみました。その後、藍の香りと色に魅せられて藍の世界に入ったのです。藍師 新居 修氏の下で藍染の研究に取り組むことができ、染色の心や技術を学ばせていただきました。

また、自分で藍作りから染めまで出来る生葉に興味を覚え、20年近く取り組んできました。途中、生葉の煮出しによって赤色が染まることに気づきましたが、安定性が悪く、研究を繰り返しました。その結果、自然発酵で次々と赤や紫、灰、茶、緑色等媒染剤なしで染められるようになりました。

草木染めの世界の念願であった「日本で育った植物で様々な色を染める」という夢を実現することとなったのです。

今回、藍染通信文化講座は17回目となりました。これも多くの皆様が熱心

に受講して下さいましたおかげと、心より感謝致しますとともに、多くの方が染めを生きがいでして毎日の生活に励んでおられる事を喜んでおります。

第10回からは、技術面についてもう少し踏み込んでお手伝いしたいと思うようになり、デザイン性を重視し、それにあった技法を選び「楽しく着る作品づくり」をテーマに、研究コースを開設しております。

自作のすくもで美しい色を出し、工房を営んでいる方、また、ギャラリーを開いてご自分の作品を販売されている方、教室を開いて指導をされている方など、各方面で講座生のご活躍のニュースを耳にします。

今回で第17回を迎えますが、初めて受講される方も、これまでに受講された方にも、より良い方法を研究・発表していきたいと思っております。

基本コースカリキュラム(全10回)

<p>3月</p> <p>藍の種を植える</p> <p>藍草からいろいろな色を染めるため、種を送りますので植えてください。 作り方は詳しくテキストで説明していきます。実習に必要な藍を収穫してください。 2m四方以上の量があります。</p>	<p>4月</p> <p>布を絞る</p> <p>絞りの技法の種類を解説します。 藍染のために用意しましょう。</p>	<p>5月</p> <p>リュウキュウ藍を育てて染める</p> <p>沖縄やインド、中国等で育っている藍で、多年草です。この藍は寒さに弱いので、ハウスや室内で冬を過ごし、春に外に出してさし木で増やし、様々な方法で染めます。</p>	<p>6月</p> <p>沈澱藍の作り方と染め方</p> <p>①リュウキュウ藍やクマアザミを使って藍を沈澱させる方法です。図解と実習を行います。 ②それ以外に新しく塩を使って沈澱させる方法を図解実習します。</p>	<p>7月</p> <p>藍生葉で青を染める</p> <p>藍生葉をミキサー方法、塩揉み方法等で、紺と木綿を染める実習をします。 テーク用の見本布、実習用の生地をお送りします。</p>
<p>8月</p> <p>生葉で七色を染める</p> <p>①ウールの原毛や絹糸を湯漬けにして染める方法です。 ②藍の生葉を発酵させて水に漬け、その液を使って染めます。</p>	<p>9月</p> <p>すくもを作る</p> <p>藍の乾燥葉を使って、少量のすくもを作ります。</p>	<p>10月</p> <p>すくもを藍建てする</p> <p>自作のすくもを使って藍建てし、染めます。</p>	<p>11月</p> <p>沈澱藍を使って染める</p> <p>沈澱藍を建て、文字や絵を描きます。</p>	<p>12月</p> <p>藍の色止めの一つとして柿渋染</p> <p>藍のさまざまな方法で7つの色を染めました。型染めの技法で、インテリアを作ります。</p>

研究コースカリキュラム(全5回)

<p>3~4月</p> <p>塩ビパイプで絞りを作る</p>	<p>5~6月</p> <p>筒絞りでワンピースを作る</p>	<p>7~8月</p> <p>ウールと綿わたを使ってベストを作る</p>	<p>9~10月</p> <p>筒描きで古代文字を描く</p>	<p>11~12月</p> <p>筒描きで花の絵を描く</p>
---------------------------------------	--	---	--	--

研究コースでは、今までに習得した技術をもとに、作品づくりを解説していきます。
今回は糊を使って文字や絵を描く筒描きの技法や、塩ビパイプやビニールの紐を使った絞りの技法などに挑戦しましょう。

受講者の声

矢吹 真理子 様(宮城県在住)基本コース

前年、藍の種を蒔いてかなり収穫できたのですが、生葉染めしか知らずもったいないことをしました。そこで色々な染め方を知りたいと考え、この講座に申し込みました。でも仙台と徳島、気候の差と天候不順は大きく一度は全滅。県北の先輩をご紹介いただき助けられました。水と太陽と肥料の大好きな藍は手のかかる子供のようです。

穂積 玲子 様(東京都在住)基本コース

安房じんの(地布)を作りたいと、藍と綿の種を館山の畑に蒔き三年。台風、日照り、塩害で挫折かけ、昨年ネットでこの講座に出会いました。毎月届くプリントに励まされ夏の生葉染めは風いだ海の色を映し、台風9号直撃にも負けず今畑では沢山の花穂が潮風に揺れています。またスクーリングでは様々な技法を学び、全国から参加された受講生の皆さんと交流できた事は貴重な体験でした。

揚野 純子 様(山口県在住)研究コース

第1回目の通信講座より、16年講座を受けさせて頂いております。毎回、新しい技術を教えて頂き、藍の魅力に心ときめいております。16回目のスクーリングに参加させて頂いた時は、紺絞り・筒書き・ロウ書きなどを教えて頂き、充実した時間を過ごさせて頂きました。アキヤマ先生やスタッフの皆様に感謝申し上げます。

スクーリング風景

吉野川市鴨島公民館・新居製藍所(平成28年11月)

